

10月に入りました

9月が終わり10月に入りました。中庭の4本のケヤキの木も、いつも間にか葉の色を変え、秋の訪れを知らせています。振り返ってみると、今年の9月は台風の影響や秋雨前線の停滞で雨の日が多く、子どもたちも外で遊べない日が続きました。暑さは和らぎ、「赤コーンの日」（赤いコーンが中庭に出ている日は、熱中症予防により外で遊べないことになっています。）がほぼなくなったと思いきや、今度は雨天のために外へ行けなかったのです。



10月に入り、久しぶりに秋晴れとなつて、外で元気に遊ぶ子供たちの姿が見られます。9月末で今年度の教育実習も終わり、いよいよ前期末を迎えます。教育実習生の授業では、時間割や持ち物へご理解・ご協力をありがとうございました。来週からは個別懇談会を実施させていただきます。限られた時間ではありますが、各担任とお子様の前期の様子について話していただき、ともに後期へとつないでいければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

校内研究の取組について

いよいよ来月7日（土）に教育研究発表協議会を行います。本校の校内研究は、昨年度より新しいテーマで進めており、その2年次となります。研究主題は、

「心豊かで実行力のある子供」育成のための認知・非認知能力統合的アプローチ

です。本校は、昨年度創立150周年という大きな節目を迎え、これまでに築き上げてきた教育実践を基盤としつつ、AI時代をたくましく生きる子供たちの成長を、滋賀大学教育学部との強固な連携のもと、この附属小学校の教職員と子供たちだからこそ実現できる、他に類を見ない新たな研究を作り上げたいと考え実践しています。本研究は、教育目標「心豊かで実行力のある子供」の育成をめざし、認知能力と非認知能力の相互作用を、具体的な授業実践をとおして追究するものです。

本年度研究2年次においては、副題に「経験と主観を活かす学び」を掲げています。生成AIが効率的に「平均的な正解」を提示する現代だからこそ、安易に納得せず、自らの経験に照らして心が動く瞬間（違和感や驚き）を大切に、自分ならではのこだわり（主観）を駆動させることが、人間ならではの粘り強い探究（実行力）を引き出す鍵になると考えられるからです。そして、子供たちの学びが深まっていくプロセスを、3つのステップで見つめています。

1. わきおこり（心のスイッチが入る予兆）「やってみよう！」という衝動や、小さな違和感が生まれる瞬間
2. ゆらぎ（考え方を修正する動的な状態）「どうすればいいだろう」と立ち止まり、対象や自己との対話を繰り返しながら、これまでの捉え方の型をアップデートしようとする時間

3. 実行力への結実（成果の応用）「わかった！」という喜びが、次の行動や新しい自分への自信につながった状態
「学びの中動態」という概念を核に、滋賀大学教育学部の知見と附属小学校の実践の互いの強みを生かし、子供たちの「自ら学び続ける姿」を支えるヒントを探っています。

11月7日（土）の教育研究発表協議会は、本校の研究校としての使命であり、全国への魅力アピールの1つです。当日はPTA役員のみならず、運営面でご協力をいただきます。なお、以前よりお伝えしているように、子どもたちの下校は、11:35～11:50となります。どうぞよろしくお願いいたします。（文責 石田 智香子）